

## アジア BP 大会簡易レポート

アジア BP 大会日本選手団団長 物江

今年のアジア BP 大会は、中東の親日国オマーン・マスカットで10/1-5開催された。7月に開催されたアジア PL 大会は、主管協会の香港のとんでもない大会運営や、大会初日に行われた会長選挙のしこりなどから、ややぎすぎすした雰囲気であったが、今回は、ゆったりとした運営スケジュールと、大会実行委員長であるオマーン協会事務局長・Saudal Khanjari 氏の真摯なお人柄により、とても良い雰囲気となった。私としては、「アジアは家族である」と3期9年間 APF 会長を勤められた吉田進氏と、それを補佐した吉田寿子氏の遺産を感じる国際試合であった。

今回の日本選手団は最終的に私を含めて9名の少人数であったが、とてもまとまりが良く、8人中7人が優勝、最重量級で樋口選手が自己記録を10kg更新しての3位と、最高の結果を残してくださった。私の十数回の海外遠征の中でもトップ3に入る日本選手団であった。

今回のチームジャパン、構成はJR3名、オープン(一般)2名、M1・2・3が各1名であった。初日の10/2に59-66の選手が6名出場、全員優勝という快挙を成し遂げたが、上述のように、選手がばらけたため、JR以外は団体戦で上位に入るの難しいのではないかと思われた。結果的にJRは団体戦2位、M2で中村英明選手・M3で佐藤恵二選手が各々団体優勝・個人ベストリフターを獲得した。

最終日19:00から開催されたバンケットでは、オマーン協会のご厚意により、バンケットフィーは無料、料理も種類が多く味も良好であったが、アルコールを摂取できない食事というのは、間が持てないと感じたのは、飲んだくれが多い日本人である証なのであるだろうか？

個人的には、APF 技術委員長の Chao 氏(台湾)と一緒に仕事をする機会が多く、アジアにおける友人ができたという感触であった(ただし、台湾は7月の選挙で反日勢力に投票した。Chao 個人の意思ではないと思われるが・・・)。

Chao 氏は「東京に帰ったら吉田ご夫妻にくれぐれも宜しくおっしゃってほしい」と最終日の前日、やや沈痛な表情で送迎バスの中で私に語り掛けてきた。

中東の各国選手団は、外見は厳つい人が多かったが、性質はとてもフレンドリーで、かつて戦争をしていたイラン-イラク、国境紛争を繰り返していたインド-パキスタンも選手同士、和気藹々としていた。参加国もドーピングによる出場停止が解けた国々が復帰し11か国であった。74kg級で240kg、83kg級285kgで優勝したカザフスタンのBPの強さが印象的であった。

とても雰囲気の良かった今大会、こういう雰囲気であったなら、この先少し APF とも付き合ってみようかという印象を持った大会であった。